

日本映画衛星放送株式会社 第24回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成23年11月8日(火)16時~17時
2. 開催場所 : 東京都江東区青海2-43 青海フロンティアビル6F
株式会社ジェイ・スポーツ・ブロードキャスティング 会議室
3. 委員の出席 : 委員総数 7名 / 出席者委員数 5名

出席委員(順不同、敬省略): 鳥居美砂・田保橋淳・坂井保之・菊地 実・石上三登志

欠席委員(順不同、敬省略): 曾根和子・西 正

放送事業者側出席者氏名 : 常務取締役 酒井 彰
編成部部长 宮川朋之 編成部 小川英洋
管理部 高岡幸代
番審担当 堤 靖芳・碓井恭子(記)

4. 議題 : 時代劇専門チャンネル オリジナルドラマ「熊五郎の顔」

5. 議題の概要

現在テレビ時代劇を取り巻く状況は厳しい。国民的時代劇「水戸黄門」が今年末をもって42年の歴史に幕を閉じることが決まり、地上波では民放から時代劇枠が消えつつある。また長年時代劇を作り続けてきた京都では、技術を継承する人材が減少、時代劇文化そのものが危機を迎えている。

今回は「時代劇専門チャンネル」が製作したオリジナルドラマ第2弾『熊五郎の顔』についてご意見をいただきたい。昨年オリジナル時代劇の第1弾を製作。第2弾の今回は、2011年10月に開局したBSスカパー!の開局目玉番組として、スカパー!本体が放送権を取得し放送。さらに酒造メーカー・月桂冠さんがスポンサーについていただいたことで、番組にかかる総製作費の一部が回収出来ている。今後もオリジナルドラマを作っていきたいと考えており、このタイミングで先生方に番組に対するご意見をいただき、次回につなげたい。

事前に『鬼平外伝 熊五郎の顔』のVTRを送付し、ご視聴いただいた上で審議を行った。

6. 審議内容

< 番審委員意見 >

- ・ 時代劇が見たいという人がいるのに作らない状況が不思議で仕方がない。
韓流時代劇を観る人は周りにもいる。韓流と日本の時代劇の違いは何なのかと思う。
- ・ 時代劇というジャンルを超えた非常に良質なテレビ番組を見た。最後のどんでん返しに向かって色々伏線があり、もともと原作がいいのか脚本がいいのかわからないが、油断できないくらい、最後は感動的だった。
- ・ 本作品にはまさに陶然とする時代劇の世界があり、それで満足したが、見たあとの印象として

は不自然さも目立つ。推理ドラマならこれでいいのかも知れないが、女心のあえかなものといったフィーリングがほしい。フィルムは、雨のシーンなど情感がよく表われていて非常に良い。

- ・ 他局でも同じことが言えるが、オリジナル番組で気をつけるべきは、力を入れて制作しプロの評価は高く賞も獲るが、作りが地味で視聴率がとれないという現象。韓国の時代劇は見ていて派手なものが多いのに、最近の日本の時代劇は今の高齢化社会に合わせてか地味なものが多い。本作は素晴らしいが、課題も多いと思う。
- ・ 作品の出来についての感想と、あるいは今後の時代劇をどうしていくのか？どちらも大きな課題である。作品はよくまとまっていると思う。また今後、時代劇というジャンルを失くしてよいものか？は、日本の映画づくり全体の問題。だからこそドラマ制作は1本で終わらせず、今後も作り続け、みんなで考えていく必要がある。

<事業者回答>

- ・ このシリーズは今まで2本製作、計3本までは作ろうと思う。時代劇を見たいという視聴者が沢山いて、その見たい気持ちをお金に替えてくださっているのだから、我々はそのお金で新しい時代劇を作るべきだという想いがある。有料放送というビジネスモデルの中でドラマができていくのはいいことだと思っている。
- ・ ドラマを作りながらここはこういう見方になるかもしれないと懸念したところが指摘されていた。プロデューサーとしてどう取りまとめていくのか、どこまで粘れるか、どの段階でクオリティチェックをしていくのか、どの段階で企画を立てた側と監督の思惑を取りまとめるのか、そこに何かいいアイデアがなかったのか…。会社が許す限りぜひまた次回も作り、『ようやくいいのができたね』と先生方にも視聴者にも言われるよう、トライ&エラーを繰り返していきたい。

7. その他の参考事項：特になし

(以上)